

授業科目 (科目ID)	人と動物の関係学	担当教員 (実務経験)	今木 康彦 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 動物病院		
対象年次・学期	1年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	動物が人間社会で果たしている役割やその背景・歴史について学び、人と動物の関係を心理学的及び社会的側面から、その実態、課題等を含めて理解する。				
到達目標	人間と動物の関わり、福祉や動物介在活動、療法、教育に関して理解する。				
テキスト・参考図書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書シリーズ4巻 動物看護学概論 / 人と動物の関係学 / 生命倫理・動物福祉				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	70%	評価試験:70% 小テスト:30%		
	レポート	%			
	小テスト	30%			
	提出物	%			
	その他	%			
履修上の 留意事項					
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	人間と動物の関わり の歴史 1	人と動物の関係(世界)		
	2	人間と動物の関わり の歴史 2	人と動物の関係(日本)		
	3	現代の人間と動物の関わり	現状の人と動物の関係、小テスト		
	4	動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育 1	動物が人間に与える影響		
	5	動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育 2	動物介在療法		
	6	動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育 3	動物介在活動		
	7	動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育 4	動物介在教育		
	8	動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育 5	学校飼育動物、小テスト		
	9	人間と動物の関わり 1	ペットを飼育する理由と現状		
	10	人間と動物の関わり 2	適切な飼育		
	11	人間と動物の関わり 3	ペットへの依存		
	12	人間と動物の関わり 4	ペットロス		
	13	人間の福祉と愛玩動物 1	動物虐待		
	14	人間の福祉と愛玩動物 2	多頭飼育崩壊		
15	人間の福祉と愛玩動物 3	人と動物の高齢化と動物医療ソーシャルワーク、小テスト			

授業科目 (科目ID)	適正飼養指導論	担当教員 (実務経験)	前鼻 彰人 動物病院 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無		
対象年次・学期	1年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	愛玩動物の効用や飼養目的を理解した上で、適正飼育の推進活動、災害時の危機管理のあり方、動物愛護管理行政の仕組みについて理解する。				
到達目標	愛玩動物の適正飼養と、適正な飼養方法について理解する。				
テキスト・ 参考図書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書シリーズ10巻 適正飼養指導論/動物生活環境学/ペット関連産業概論				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	60%	評価試験:60% レポート:20% 小テスト:10% 提出物:10% 円山動物園見学実習前の事前学習や飼育員さんへの質問事項		
	レポート	20%			
	小テスト	10%			
	提出物	10%			
	その他	%			
履修上の 留意事項					
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	愛玩動物の飼養 1	適正飼養、人間が受ける影響と問題点		
	2	適正飼養の推進 2	動物取扱業		
	3	適正飼養の推進 3	多頭飼育ガイドラインとは、過剰繁殖の問題と対策		
	4	適正飼養の推進 4	犬の社会化		
	5	適正飼養の推進 5	子犬教室や子猫教室		
	6	適正飼養の推進 6	不妊・去勢手術、小テスト		
	7	適正飼養の推進 9	円山動物園見学		
	8				
	9				
	10				
	11	グルーミング基礎	グルーミング道具の配布・説明		
	12	グルーミング基礎	道具の使用練習		
	13	グルーミング基礎	グルーミング座学 グルーミング心構え		
	14	グルーミング基礎	グルーミング座学 グルーミング用語		
15	グルーミング基礎	グルーミング座学 犬の扱い方			

授業科目 (科目ID)	適正飼養指導論	担当教員 (実務経験)	佐藤 真帆 動物病院 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無		
対象年次・学期	1年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	実習	授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	愛玩動物の効用や飼養目的を理解した上で、適正飼育の推進活動、災害時の危機管理のあり方、動物愛護管理行政の仕組みについて理解する。				
到達目標	行政と災害、終末期ケアについて理解する。				
テキスト・ 参考図書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書シリーズ10巻 適正飼養指導論/動物生活環境学/ペット関連産業概論				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	60%	評価試験:60% レポート:20% 小テスト:20%		
	レポート	20%			
	小テスト	20%			
	提出物	%			
	その他	%			
履修上の 留意事項					
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	動物愛護管理行政 1	動物愛護管理行政とは		
	2	動物愛護管理行政 2	行政の役割		
	3	動物愛護管理行政 3	動物取扱業者の規制		
	4	災害危機管理と支援 1	災害とは		
	5	災害危機管理と支援 2	動物災害救護ガイドライン		
	6	災害危機管理と支援 3	同行避難と同伴避難		
	7	災害危機管理と支援 4	平常時と災害時の備え		
	8	災害危機管理と支援 5	動物看護師の役割、小テスト		
	9	終末期ケアの基礎 1	グリーフとは		
	10	終末期ケアの基礎 2	グリーフケアとベットのロス		
	11	終末期ケアの基礎 3	グリーフケアとベットのロスの実践、小テスト		
	12	終末期ケアの基礎 4	動物霊園見学実習		
	13				
	14				
15					

授業科目 (科目ID)	動物生活環境学	担当教員 (実務経験)	吉成 史織 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 動物病院		
対象年次・学期	1年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	動物の行動様式を理解した上で、家庭等における飼育環境の整備、ペット共生住宅、ペットツーリズム関連施設、ドッグラン、保護収容施設、ペットの教育・訓練施設及び動物介在教育施設の整備・管理の方法、ペットの事故やケガ等のリスクを除去・軽減するための方法や飼育マナーについて学び、人とペットとの共生のための生活環境のあり方を理解する。				
到達目標	飼育環境整備や、ペットに関わる生活環境について学び、飼育マナー等を理解する。				
テキスト・参考図書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書シリーズ10巻 適正飼養指導論 / 動物生活環境学 / ペット関連産業概論				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	70%	その他：授業への取り組み姿勢や授業態度を含みます。		
	レポート	%			
	小テスト	30%			
	提出物	%			
	その他	%			
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	飼育環境整備 1	犬の飼育環境整備		
	2	飼育環境整備 2	猫の飼育環境整備		
	3	飼育環境整備 3	犬との暮らし方		
	4	飼育環境整備 4	猫との暮らし方		
	5	飼育環境整備 5	シニアペットとの暮らし方、小テスト		
	6	ペットツーリズム	ペットツーリズムと動物看護師		
	7	ドッグラン	ドッグランの環境整備と管理		
	8	ペット関連のイベント活動	イベント企画と運営		
	9	保護収容施設	管理センターとシェルター、小テスト		
	10	ペットへの教育 1	トレーニング		
	11	ペットへの教育 2	教育内容		
	12	動物介在教育施設	学校飼育動物の管理		
	13	マナー・リスクへの対応 1	飼育マナーとは		
	14	マナー・リスクへの対応 2	条例		
15	マナー・リスクへの対応 3	ペット保険に関して、小テスト			

授業科目 (科目ID)	ペット関連産業概論	担当教員 (実務経験)	佐藤 真帆 動物病院		
対象年次・学期	1年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	ペット関連産業に従事する者としての職業倫理・行動倫理を理解するとともに、ペット飼養のニーズや形態、ペット関連産業を構成する業種の概要、動物取扱業における動物取扱責任者として実践的知識や手法を学ぶ。				
到達目標	動物取扱業としての職業倫理、ペット関連サービスの現状と課題を理解する。				
テキスト・ 参考図書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書シリーズ10巻 適正飼養指導論 / 動物生活環境学 / ペット関連産業概論				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	70%	評価試験:70% 小テスト:30%		
	レポート	%			
	小テスト	30%			
	提出物	%			
	その他	%			
履修上の 留意事項					
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	職業倫理 1	ペット関連産業の職業倫理		
	2	職業倫理 2	商取引の関連法規		
	3	職業倫理 3	商取引の関連法規		
	4	職業倫理 4	商取引の関連法規		
	5	職業倫理 5	商取引の関連法規		
	6	職業倫理 6	動物の愛護及び管理に関する法律(動愛法)の概要、小テスト		
	7	飼育実態と市場規模	飼育実態と市場規模の概要		
	8	現状と課題 1	ペット関連サービスの現状		
	9	現状と課題 2	ペット関連サービスの現状、小テスト		
	10	動物取扱業 1	動物取扱制度		
	11	動物取扱業 2	第一種動物取扱業		
	12	動物取扱業 3	第二種動物取扱業		
	13	動物取扱業 4	動物取扱責任者とは		
	14	動物取扱業 5	ワクチンで予防できる感染症(犬)		
15	動物取扱業 6	ワクチンで予防できる感染症(猫)、小テスト			

授業科目 (科目ID)	動物臨床検査学実習		担当教員 (実務経験)	今木 康彦 動物病院		
対象年次・学期	1年・後期		必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	演習		授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	検体検査に必要な手技や機器の扱い方など、動物臨床検査学で学んだ知識の実践力を修得する。					
到達目標	検体検査の技術を修得する。					
テキスト・ 参考図書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠動物看護実習テキスト(第3版) 愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書シリーズ7巻 動物内科看護学 / 動物臨床検査学					
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	70%	評価試験: 70 % 小テスト: 30%			
	レポート	%				
	小テスト	30%				
	提出物	%				
	その他	%				
履修上の 留意事項						
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	生体検査1	糞便検査(直接塗抹法の手技)			
	2	生体検査2	糞便検査(直接塗抹法の実践)			
	3	生体検査3	糞便検査(浮遊法の手技)			
	4	生体検査4	糞便検査(浮遊法の実践)			
	5	生体検査5	糞便検査の虫卵および原虫の検出			
	6	生体検査6	糞便検査の虫卵および原虫の検出、小テスト			
	7	生体検査7	尿検査の手技			
	8	生体検査8	尿検査の物理化学性状			
	9	生体検査9	尿検査所見の記録			
	10	生体検査10	尿検査の補助(その他)、小テスト			
	11	生体検査11	全血球検査及び血液化学検査			
	12	生体検査12	全血球検査及び血液化学検査			
	13	生体検査13	全血球検査及び血液化学検査			
	14	生体検査14	全血球検査及び血液化学検査			
	15	生体検査15	全血球検査及び血液化学検査、小テスト			

授業科目 (科目ID)	動物愛護・適正飼養実習	担当教員 (実務経験)	長谷川 満 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 訓練士		
対象年次・学期	1年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	演習	授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	動物の飼育管理に関する基本的な扱いや飼い主とのコミュニケーションなど、愛護・適正飼育に関連した科目で学んだ知識の実践力を修得する。				
到達目標	動物の基本的な取扱いの技術を修得する。				
テキスト・ 参考図書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠動物看護実習テキスト(第3版) 愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書シリーズ10巻 適正飼養指導論/動物生活環境学/ペット関連産業概論				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	70%	評価試験:70% 小テスト:30%		
	レポート	%			
	小テスト	30%			
	提出物	%			
	その他	%			
履修上の 留意事項					
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	心がまえ 1	犬を飼ううえで考えること		
	2	心がまえ 2	性格形成、犬との関わり方		
	3	しつけ 1	トイレ、イタズラ		
	4	しつけ 2	甘噛み、じゃれつき		
	5	しつけ 3	鳴き、吠え、小テスト		
	6	しつけ 4	ルール作り		
	7	しつけ 5	子犬の管理、成長と関わり方		
	8	しつけ 6	散歩のしかた、引っばりの対応、小テスト		
	9	実技 1	リードの持ち方、制御の仕方		
	10	実技 2	落ち着かせ方、注意の引き方		
	11	実技 3	一緒に歩く		
	12	実技 4	フードを使って注意を引く方法		
	13	実技 5	フードで気を引いて一緒に歩く		
	14	実技 6	オイデ・オスワリ		
15	実技 7	しつけ教室の見学、小テスト			